

研究課題名	カルシウム・リン・骨代謝異常に関連する内分泌代謝および慢性腎臓病の治療による血管石灰化指標の変化の検討
研究の意義・目的	<p>カルシウム・リン・骨代謝異常を伴う内分泌疾患（原発性副甲状腺機能亢進症、原発性アルドステロン症、クッシング症候群、甲状腺機能低下症）や骨粗鬆症、ビタミン D 代謝異常、糖尿病などの代謝疾患の患者は心血管疾患の頻度が高いことが知られています。それぞれのホルモン異常による直接的な臓器への作用や内皮機能障害、酸化ストレスを介した動脈硬化にくわえて、血管石灰化の関与も注目されていますが、血管石灰化に関するメカニズムはまだ明らかになっていない部分も多く存在します。近年、石灰化の「病原体」として、リン酸カルシウムと Fetuin-A という蛋白が結合したナノ粒子である Calciprotein particle（CPP）という物質が注目されています。また、形成された CPP がより石灰化作用の強い 2 次性 CPP へと変換するのに要する時間である Serum calcification propensity（血清石灰化傾向：T50）が心血管イベントや総死亡の新しいマーカーになるのではないかとという研究結果も報告されています。さらに血管石灰化に関連する因子である血中カルプロテクチンも近年新たに報告されました。</p> <p>そこで本研究では内分泌代謝疾患や慢性腎臓病に対する標準的な治療によって、各疾患指標と T50、CPP、Fetuin-A、カルプロテクチンがどのように関係するかを検討したいと考えています。カルシウム・リン・骨代謝異常を呈する内分泌代謝疾患・慢性腎臓病とこれらの血管石灰化指標との関連を明らかにすることで、それぞれの疾患おける動脈硬化、血管石灰化の予防に貢献し得る大変有意義な研究と考えています。</p>
研究を行う期間	機関の長の実施許可日 ～ 2029 年 12 月
研究協力を お願いしたい方 (対象者)	「内分泌代謝疾患、リウマチ・膠原病疾患における睡眠機能、自律神経機能、24 時間血圧、骨代謝、身体機能、動脈硬化との関連性の検討」（承認番号 3506）にご協力いただいた方のうち、大阪公立大学医学部附属病院の骨・内分泌内科、腎臓内科へ、高カルシウム血症（原発性副甲状腺機能亢進症、ビタミン D 代謝異常、ビタミン D 中毒症）、クッシング症候群、原発性アルドステロン症、甲状腺機能異常、副甲状腺機能低下症をはじめとした内分泌代謝疾患、CKD-MBD を呈する保存期および末期慢性腎不全のため受診された 500 人の方が対象となります。
協力をお願いしたい 内容と研究に使わせて いただく試料・情報 等の項目	<p>過去にご協力いただいた研究（「内分泌代謝疾患、リウマチ・膠原病疾患における睡眠機能、自律神経機能、24 時間血圧、骨代謝、身体機能、動脈硬化との関連性の検討」承認番号 3506）でご提供いただいた下記項目を本研究に使用させてください。</p> <p>診療情報：病歴、診断名、年齢、性別、既往歴、血液・尿検査結果、動脈硬化検査、CT 画像、身体組成調査、24 時間血圧測定</p> <p>試料：保険診療の検査で採取された血液の残余部分</p>
試料・情報を 利用する者の範囲 および管理について 責任を有する者の 研究機関の名称	<p>この研究は、公立大学法人大阪 大阪公立大学大学院医学研究科 血管病態制御学、代謝内分泌病態内科学で行います。</p> <p>【研究責任者】血管病態制御学 永田 友貴</p>

本研究の 利益相反	利益相反の状況については研究者等が利益相反マネジメント委員会に報告し、その指示を受けて適切に管理します。 本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力を したくない場合	診療情報が当該研究に用いられることについてご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも不利益を受けることはありません。
連絡先	大阪公立大学医学部附属病院 骨・内分泌内科 担当者氏名：永田 友貴 電話番号：(06) 6645-2311 メールアドレス：yuki.nagata@omu.ac.jp